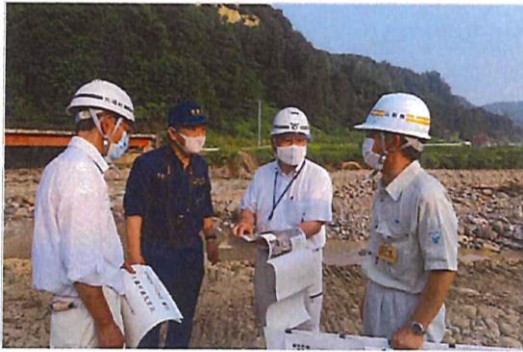


令和2年8月18日（火曜日）



【7月豪雨】足立敏之議員が山形県視察／無堤部の早期整備を



浸水被害の状況説明を受ける足立議員（左から2人目）

自由民主党の足立敏之参議院議員は、7月下旬の豪雨で被災した山形県の最上川沿川地域を8月5日に視察した。山形県内では、湯殿山雨量観測所で累加雨量が過去最大の280mmを記録。主要4力所の水位観測所でも計画高水位を超える観測史上最高の水位を更新したため、最上川の堤防では無堤部など5カ所で越水被害が発生している。被災した自治体の首長からは、無堤部における堤防の早期整備や既存堤防のかさ上げ、河床掘削の必要性などを訴える要望が寄せられたという。

また足立議員は今回の出水時に大きな効果を発揮した直轄の寒河江ダムも視察。同ダムは完成以来最大の流入量を記録したものの、ピーク時には1000トン以上を貯留し、下流の水位を1・6m低下させる効果を発揮した。さらに、上流の白川ダムと長井ダムも同様に大きな洪水調節効果があったことも確認されている。足立議員は、ダムも含めた手法で治水を行ったことで、被害軽減につながったと指摘する。

今回、未曾有の大雨となったものの山形県内では人的被害が出ていない。これは熊本県の豪雨災害を教訓に円滑な避難ができていたことが主な要因。今後もハード・ソフト対策、本川・支川のバランスの取れた整備とともに、事業中を含めた無堤区間の整備を急ぐ必要があるだろう。